

とよなかしの消防



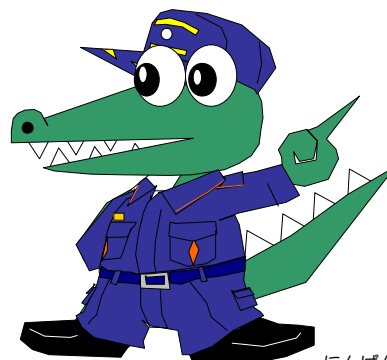
きゅうじょこうさくしゃ

豊中市消防本部

も く じ

■ 消防 <small>しょうぼう</small> があるわけ	1
■ 消防 <small>しょうぼう</small> の仕事①	2
【予防 <small>よぼう</small> の仕事 <small>しごと</small> 】	
火事 <small>かじ</small> になる <small>まえ</small> 前に	
火事 <small>かじ</small> にならないための工夫 <small>くふう</small>	
■ 消防 <small>しょうぼう</small> の仕事②	5
【警防 <small>けいぼう</small> の仕事 <small>しごと</small> 】	
火事 <small>かじ</small> を消 <small>け</small> す、人 <small>ひと</small> を助 <small>たす</small> ける、	
けが <small>にん</small> 人・病 <small>びょうにん</small> 人 <small>はこ</small> を運 <small>はこ</small> ぶ	
■ 消防 <small>しょうぼう</small> の仕事③	9
みんなで「火災 <small>かさい</small> 予防 <small>よぼう</small> 」を	
■ 消防 <small>しょうぼう</small> の統計 <small>とうけい</small>	13
火事 <small>かじ</small> と救急 <small>きゅうきゅう</small> の件数 <small>けんすう</small> 、原因 <small>げんいん</small>	
■ みんなで勉強 <small>べんきょう</small> しよう	14
■ 地震 <small>じしん</small> のそなえ	16
■ おわりに	19

消防があるわけ



人間がまだ自分で火を起こすことができなかった、むかし、人間は火を「おそろしいもの」と考えていました。火山の噴火や雷、山火事など、自然に起こる火の害が、人間の生活をおびやかしていたからです。

やがて人間は、自分で火を起こし、火を使うことを覚え、物を焼いたり煮たりして、生活に役立てるようになりました。

それから、だんだんと火を使うことになれて、注意がおろそかになったり、油断するようになりました。そして火事が起こりはじめたのです。

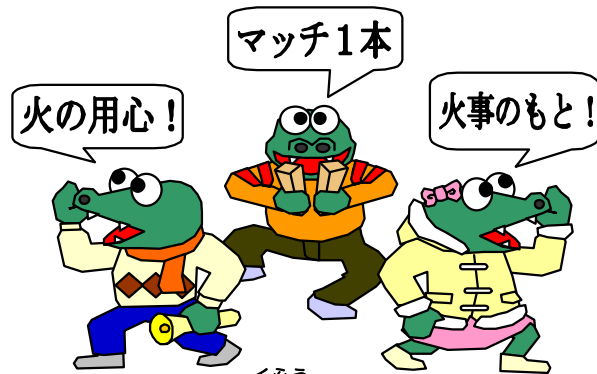
野原に一軒しか家がないときの火事なら、一軒が燃えるだけですが、逃げ出すことも簡単でした。でも、村や町ができ、人々が集まって生活するようになると、家はくっつきあって建てられ、マンションやデパートなど、みんなで使う大きな建物が増えてきました。

火事は、だんだん大きくなり、ひとりやふたりの力では消せないものになってきました。そのため、江戸時代の中ごろに火消組という、火事を防ぐ団体がつくられました。明治時代になって、消防組となり、やがて今のような消防になりました。

かじ かみ き たけ いえ も じだい いま わたし
火事も、紙や木や竹でつくられた家が燃える時代から、今では、私
せいかつ なか せきゆ せいひん も じだい ゆうがい
たちの生活の中にあふれている石油製品が燃える時代になり、有害
ふく けむり はっせい
なガスを含む煙がたくさん発生するものになっています。

かじ よぼう かじ ふせ け しょうぼう
火事を予防し、火事を防ぎ、消す。そのために消防はあります。

消防の仕事 ①



かじ まえ かじ くふう
火事になる前に、火事にならないための工夫

◆ 予防の仕事

よぼう しごと
予防の仕事は火事や事故が起こらないようにすることです。人が
あつ たてもの こうじょう きけん たてもの とく
たくさん集まる建物や工場のように危険なものがある建物では、特
かじ じこ お き
に火事や事故が起こらないように気をつけなければなりません。そ
けんさ あんぜん かくほ
のために検査をしたりして、安全を確保します。

ふつう いえ おお
普通の家から大きなビルやガソリンスタンドまで、いろいろな
ばしょ かじ じこ あんぜん しごと
場所で、火事や事故のない、安全なまちづくりのための仕事をして
います。

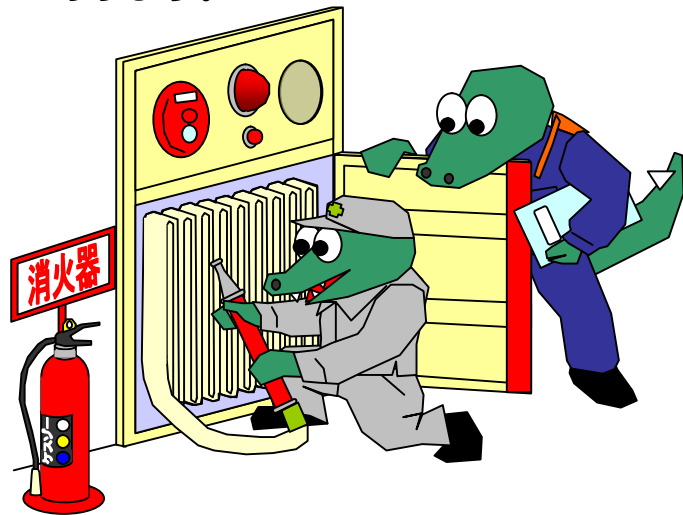
よぼう しごと けんちく せつび しごと きけんぶつ しごと ささつ しごと よぼう
予防の仕事は、建築・設備の仕事・危険物の仕事、査察の仕事、予防
こうほう しごと
広報の仕事にわかれます。

◎ 建築・設備の仕事

たくさんの方が集まる建物は、もし火事が起これば、被害が、ものすごく大きくなります。建物を燃えにくくしたり、もし火事になっても、人が逃げやすく、火や煙が伝わりにくいような、そんな工夫をしなければなりません。

建物を建てる時から安全なしくみを考え、用意しておくように教えたり、注意することが、この建築・設備の仕事です。

火事の時に役立つ設備には、学校にもある消火器、屋内消火栓のほか、天井から霧のように水を出す「スプリンクラー」とか、火事が起きたことをベルで知らせる「自動火災報知設備」、火事が広がるのを防ぐ「防火戸」などがあります。



◎ 危険物の仕事

ガソリンや灯油は、
あっという間に燃え
上がる、たいへん危
険なものです。とこ
ろが、今の私たちの
生活は、こういった

決められた量より
多いんちゃう？



ものがなければやっていけなくなっています。

危なくても、使わなければならないものですから、特に注意が必要
です。

「危険物」の仕事は、ガソリンや灯油などの使い方や貯蔵してお
く場所、その建物などをくわしく調べて、安全かどうかを確かめる
ことです。

消防署の人がガソリンスタンドや工場で、検査をしているのは、
このためです。

◎ 査察の仕事

「査察」とは、建物に立入り検査をし、火事になりそうな悪い所
や危険な所があれば、早く直すよう、管理している人や持ち主に伝
えます。

特に、デパートや映画館のように、たくさんの人が集まる建物や、

ホテルなど人が泊まる建物は、ちょっとした不注意が、
おお大きなかし火事やおお大きなじこ事故になりやすいので、しっかり
み見てまわります。



◎よぼうこうほう予防広報のしごと仕事

よぼうこうほう予防広報のしごと仕事は、きかい機会があるごとにかさいよぼう火災予防へのよ呼びかけをおこな行う仕事です。また、とく特にかさい火災がはっせい発生しやすくなる3月は「がつ春のはる火災かさい予防運動」、11月は「がつ秋のあき火災かさいよぼううんどう予防運動」を行い、おこな消防フェアのほか、えきまえ駅前やてんとうスーパーなどの店頭で「かさい火災にき気をつけてください」とひろ広くしみん市民にこえ声をかけています。

消防の仕事 ②



かじ火事をけ消す、ひと人をたす助ける、にんけが人・びょうにん病人をはこ運ぶ。

◆けいぼう警防のしごと仕事

かじ火事やきゅうきゅうじこ救急事故のとき、さきまっ先にかかけつけ、かつやく活躍するのがけいぼう警防の

おお しごと かじ とき かじ け やくめ しょうかたい に お
大きな仕事です。火事の時、火事を消す役目の「消火隊」、逃げ遅れ
ひと じこ ひと たす きゅうじょたい
た人や事故にあった人を助ける「救助隊」、そしてけがをした人や、
きゅうびょう ひと はこ きゅうきゅうたい
急病にかかった人を運ぶ「救急隊」など、それぞれ仕事がか
わ
れています。

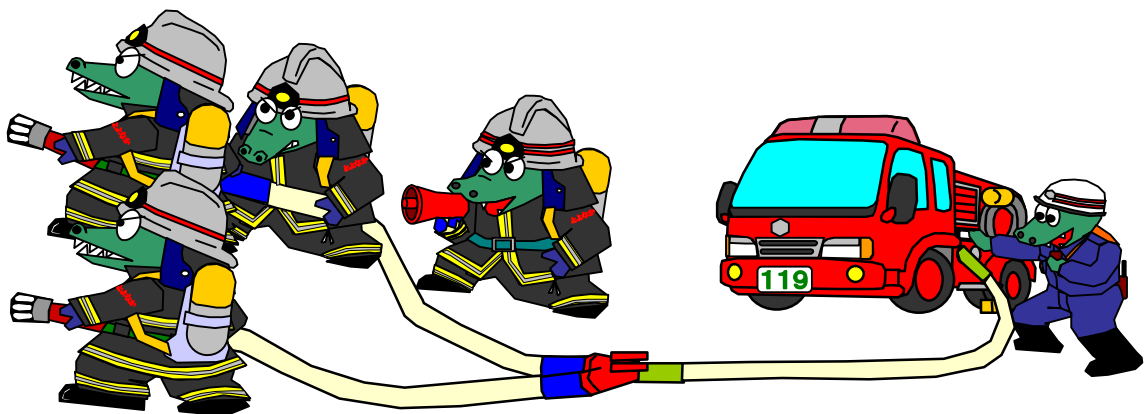
ほか かじ や げんいん しら かさい よぼう
その他、火事の焼けあとから原因を調べて、火災の予防につなげ
ちようさたい けいぼう しごと
る「調査隊」も警防の仕事です。

◎ しょうかたい 消火隊

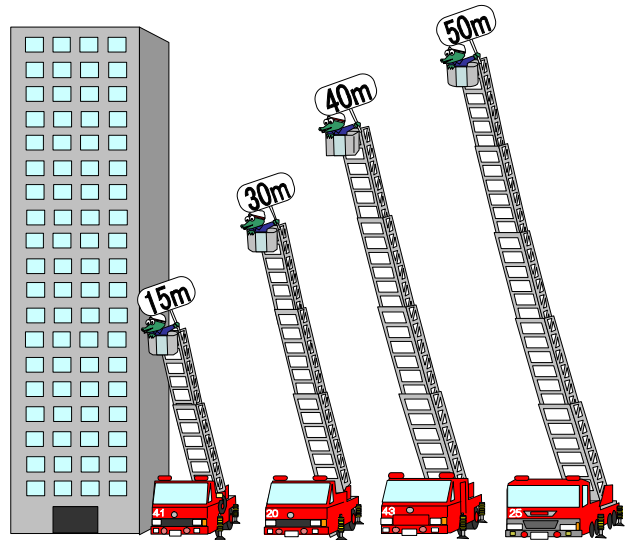
しょうぼう じどうしゃ の かじ ばしょ
消防ポンプ自動車に乗りくみ、火事のか所にかつけます。

にん ひとり たいちょう ひとり きかんいん うんてん
5人が1チームとなり、1人が隊長、1人が機関員(運転したり、
うご ぽんぷ を動かす)、にん ほうすいたいいん かじ みず やくめ
3人が放水隊員(火事に水をかける)の役目をし
ます。

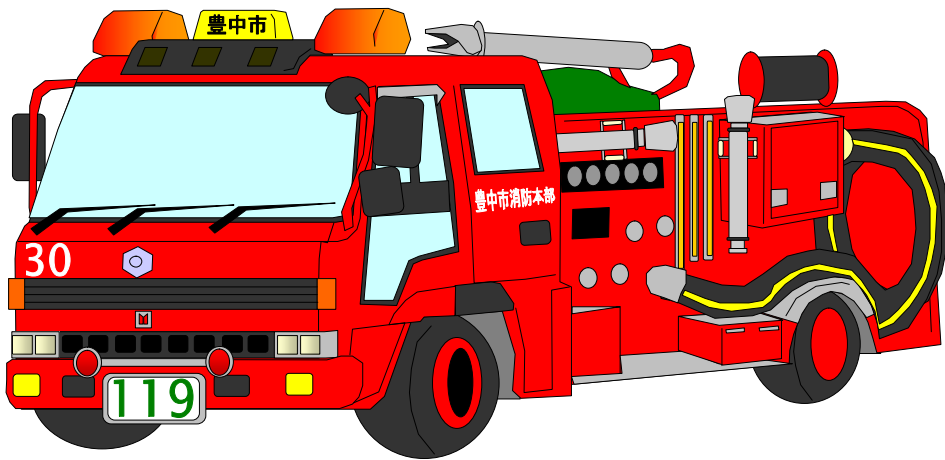
たい しょうぼう じどうしゃ くち みず だ ちから あ
1台の消防ポンプ自動車で2口の水を出し、みんなが、力を合わ
かじ け しごと と く
せて火事を消す仕事に取り組みます。



はしご車は、火を消
すことも助けることも
できる自動車ですが、
主にビルなど高い所で
役立つようにつくられ
ています。



化学車は、普通の火事でも火を消すことができますが、ガソリン
などの危険物が燃えて、水をかけて消すことができない火事になっ
たときに、泡を出して火を消すことができるようにつくられています。



火事は、建物の種類や、場所、その日の天気、風向きなどによっ
て、燃え方が違うので、みんなで研究して、よく覚えておきます。
消火隊員は普段から、まちの建物や道路をよく見て研究し、いざ
という時にそなえています。

◎ 救助隊



救助隊は、オレンジ
の救助服に黒の
編上げ靴を履いて救
助工作車に乗りこみ
ます。

救助隊員は火事で
逃げ遅れた人や交通事故で車の中に閉じ込められた人などを助
ける仕事をします。

救助隊員は、人を助け出すための勉強や体を鍛える訓練をして
います。

また、救助隊員の中には、外国で大きな災害が起きた時に人を助
けに行く国際消防救助隊員がいます。

◎ 救急隊

救急隊員は、隊長と機関員と隊員の3人がチームを組んで
救急車に乗ります。3人とも応急処置のやり方などの勉強を積み
重ね、けがや病気について、とてもよく知っている人が選ばれてい
ます。

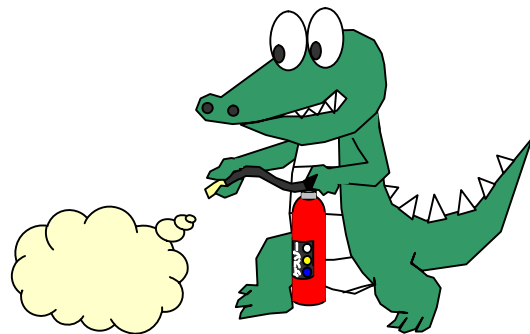


救急隊員は、心肺蘇生法や、けがや病気の応急処置のやり方などを知っているだけでなく、命の大切さを、みんなに知ってもらう講習会なども行なっています。

市内すべての救急車は、高規格救急車で、必ず命を救うための特別な処置を行うことができる資格を持った、救急救命士が乗っています。

消防の仕事 ③

みんなで「火災予防」を



約15秒

◆ いろんな消防の行事

火事をなくすためには、町の人たちみんなが、火災予防をする必要があります。消防だけが「火災予防をしてください。」と言っても、なかなか火事はなくなりません。

まち ひと しょうぼうしょ はな あ かじ すく
町の人たちみんなと、消防署が話し合っ、どうすれば火事を少
なくすることができるか、どんなところに気をつけたらいいか、研
ぎゅう じっごう たいせつ しょうぼうしょ けいぼう
究しそれを実行することが大切です。そのために消防署では警防
よぼう しごと いかい かじ ぎょうじ
や予防の仕事以外に、火事をなくすための行事をいろいろしています。
しょうぼうおんがくたい
消防音楽隊があるのもそのためです。

しょうぼうおんがくたい おんがく えんそう かじ さいがい
消防音楽隊は音楽の演奏をとおして、火事や災害をふせぐための
ほうほう かんが つた
方法をみんなといっしょに考えたり、伝えたりするだけでなく、
しょうぼう しごと し やくめ も
消防の仕事をみんなに知ってもらう役目も持っています。

おんがくたいいん よぼう けいぼう しごと やす おんがく れんしゅう
音楽隊員は、予防や警防の仕事が休みのときに音楽の練習をして、
たの えんそう
いつも楽しい演奏ができるようにしています。



つぎ か ちいき がっこう おこ
次に書いたものは、そのうちのいくつかですが、地域や学校で行わ
れる しょうぼう ぎょうじ かんが
れる消防の行事で、ほかにどんなものがあるか、考えてみましょう。

◆ 地域で行われる行事

消防署では、地域の人たちに「火災予防」を強く呼びかけています。

自分たちの家や地域は自分たちで守ることが大切だからです。

危険な場所、家の中での火の使い方、出かける前、寝る前の火の元

点検などを「広報とよなか」や、一声訪問などで呼びかけています。

豊中市では、火事の原因

として放火が一番多いこと

から、放火による火事を防

ぐためのパトロールもして

います。



みんなが協力して、地域ぐるみで火事をなくすことや、放火され
れない環境をつくっていくことが大切なのです。

◆ 季節によって行われる行事

冬や春先は、カラカラに乾いた空気におおわれます。

特に私たちがすんでいる太平洋側は、雨や雪があまり降らないの

で、火事になればアッというまに大火事になってしまいます。

特に12月から4月ごろまでが、もっとも火事の起こりやすい

季節で、一年間の中でも多くの火事が、この期間に起こるのです。

そこで、春と秋に、全国の消防署で「火災予防運動」を行い、

みなさんと協力して、消防フェアや消防訓練などを行いながら

あらためて「火災予防」の大切さを伝えています。

かさい よぼう ちから
火災の予防は、みんなの力で



◆ ^{がっこう} ^{おこな} ^{ぎょうじ}
学校で行われる行事

^{しょうがっこう} ^{ちゅうがっこう} ^{おこな}
小学校や中学校で行われる

^{ぎょうじ} ^{しょうぼうくんれん}
行事には、消防訓練があります。

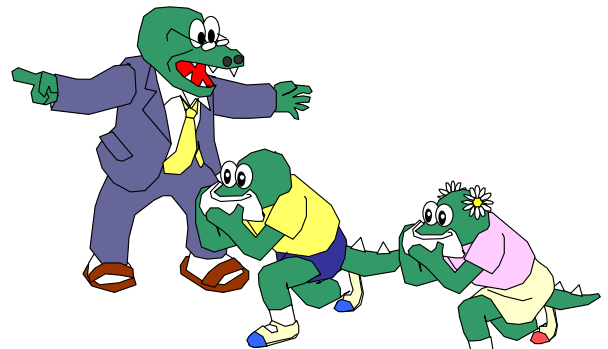
^{がっこう} ^こ
学校は、たくさん子どもた

ちがいるところですから、もし

^{かじ} ^{じしん} ^お ^{とき} ^{じぶんかって} ^{うご} ^{まわ}
火事や地震が起きた時、自分勝手に動き回ってはいけません。

だから、^{ひなんくんれん} 避難訓練をして、^{かじ} ^{じしん} ^{とき} 火事や地震の時にけがをしないように
そなえるのです。

火事になって^{にげ} ^{とき} 逃げる時は、^{くち} ^{はな} 口や鼻にハンカチやタオルをあてて、
^{しせい} ^{ひく} ^{せんせい} ^い ^き ^{すばや} ^に ^だ
姿勢を低くし、先生の言うことを聞いて、素早く逃げ出さなければ
なりません。



消防の統計

◆ 火事の統計

平成22年の一年間で

116件の火事が起こりました。



3. 1日に、1件起きていることになります。

これによって燃えた面積は、691㎡、損害額は、1億3千973万9千円でした。

火事でなくなった人は3人、けがをした人は22人でした。

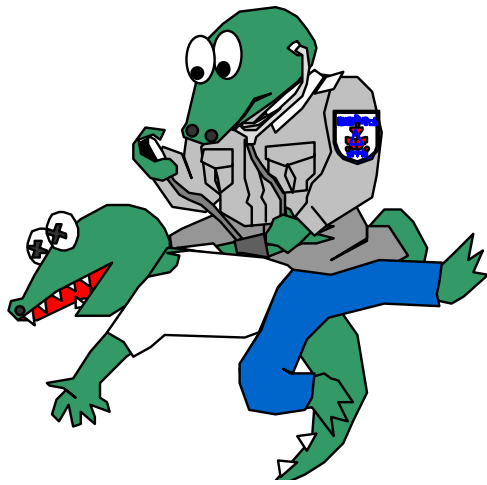
◆ 救急の統計

平成22年の一年間の救急件数は、18,551件です。

いちばん多かったのは「急病」で、12,195件、次に多かったのは「一般負傷」で、2,721件、3番目は「交通事故」で、1,771件でした。

救急車で病院に運ばれた人は16,473人でした。

救急車の出動は、約28分に1回出場し、一日に約45人の人が病院に運ばれていることになります。



きゅうきゅうしゃ は、ほんとうに急いで

病院に運ばなければならない人

のためにあります。

軽いけがや病気の時には使わ

ないようにしましょう。

みんなで勉強しよう

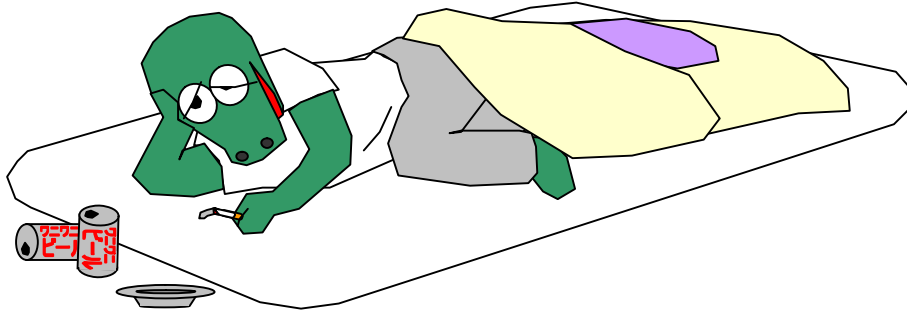
◆ 火事を出さない心がけ

火事になると、大切なものや命までも奪ってしまいます。みんな
で注意しましょう。

1. マッチやライターで火遊びをしてはいけません。
2. 花火遊びは安全な所で大人の人といっしょにしましょう。
3. ストーブの周りで暴れると、倒れて火事になったり大やけどを
するのでやめましょう。
4. 放火されないように、家の周りにはゴミやダンボールなど、燃
えやすいものを置かないようにしましょう。

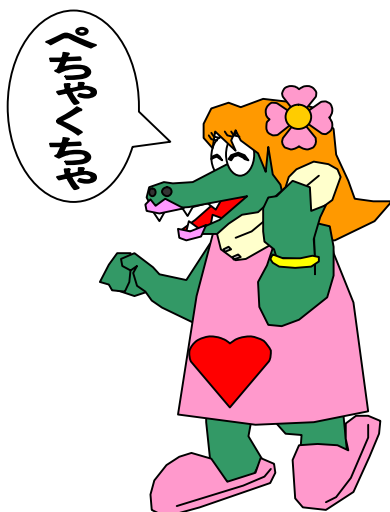
5. 大人の人の寝たばこやたばこのポイ捨ては、いけないことです。

もし、家の中で寝たばこを見かけたら、注意してあげましょう。



6. てんぷら料理をしている途中で、その場をはなれようとしてい

る時は、「火を消してから」と声をかけてあげましょう。



ワシ、さびしがりやさかい
ひとりぼっちにされたら
暴れてまうで～!!



◆ ひなん 避難

1. ひく しせい 低い姿勢で

けむり なか にげ とき はな くち ひく しせい
煙の中を逃げる時は、鼻、口をタオルなどでおおい低い姿勢で
すばや きゅう かいだん うし む お
素早く、急な階段は後ろ向きで、はうようにして降りましょう。

2. にかしよいじょう に みち 二カ所以上の逃げ道

かじ あ とき かんが ひ にかしよいじょう に みち
火事に合った時のことを考え、日ごろから二カ所以上の逃げ道
たし
を確かめておきましょう。

3. かじ はや し はや ひなん しんしつなど じゅうたくようかさい 火事を早く知り、早く避難するために、寝室等に住宅用火災

けいほうき と つ
警報器を取り付けましょう。



地震のそなえ

◆ じしん 地震について

じしん しぜんさいがい なか
地震は自然災害の中で、もっともおそろしいものといわれています。
それは、じしん さいがい かじ たてもの ほか さい
地震による災害が、火事や建物がこわれるなど他の災
がい お おお さいがい
害を起こして、大きな災害になるからです。

にほん じしん おお くに へいせい ねん がつ にち はん
日本は、たいへん地震の多い国です。平成7年1月17日に、阪
しん あわじだいしんさい おお ひと な
神・淡路大震災がおり、多くの人々が亡くなったり、けがをしたり
しました。

とよなかし にん ひと な むね たてもの ひがひ
豊中市でも、9人の人が亡くなり、35,178棟の建物が被害を
受けました。

じしん お わたし じしん
地震は、いつ、どこで起こるかわかりません。私たちは、地震が
お とき お つ こうどう じしん べんきょう
起こった時に、落ち着いて行動できるよう、地震について勉強し、
ひ じゅうぶん そな たいせつ
日ごろから十分に備えておくことが大切です。

◆ 地震にそなえて

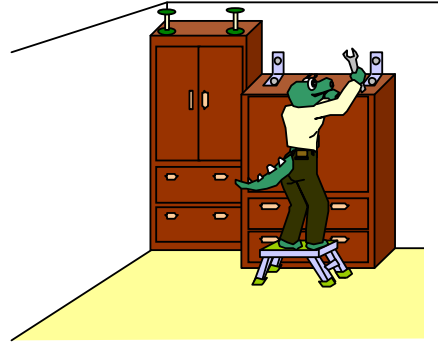
1. 地震がいつ起こってもあわて
ず行動できるよう、家族全員
で地震のそなえについて話し
合っておきましょう。
いざという時のためにそれぞれ
の役割を決めておきましょう。



2. 家の周りや近所の様子をよく知
っておきましょう。
3. 食料 や水などの非常時持出品を
リュックサックにつめて、いつで
も持ち出せるように用意しておきましょう。

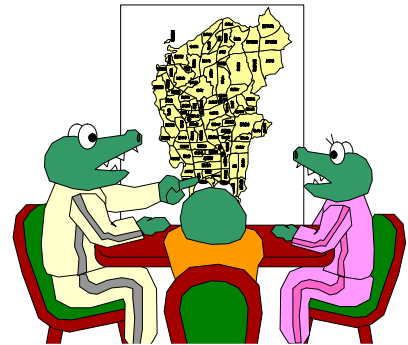


4. タンスや食器棚等は、倒れない
よう、固定するようにしましょう。



5. お風呂にはいつも水をためてお
きましょう。

6. 地震が起こった時に、避難する
避難所や広域避難場所を覚えて
おきましょう。



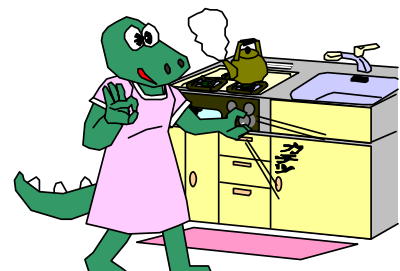
◆ 地震の時の心得

1. グラツときたら、丈夫な机やテ
ーブルの下に逃げましょう。



座布団が近くにあれば、頭を守
りましょう。

2. 使っている火は素早く消しまし
よう。

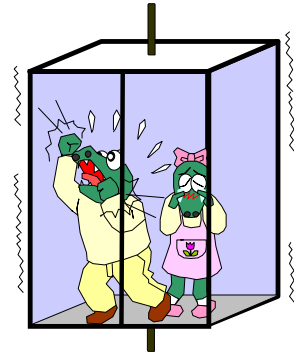


3. 逃げるためのドアや窓を開けて
おきましょう。

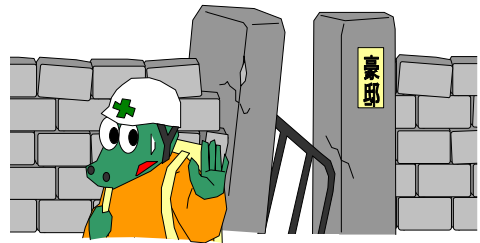
4. ガラスや瓦、壁などが落ちてく
るので、あわてて外に飛び出さな
いようにしましょう。



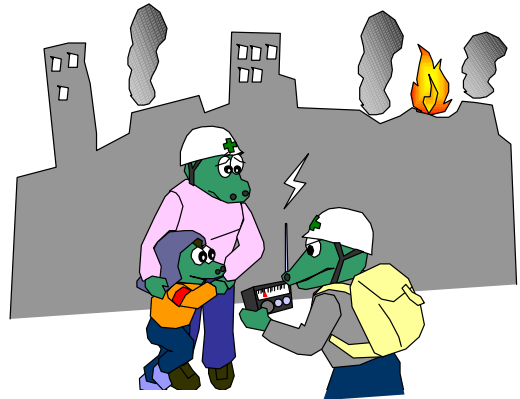
5. 逃げる時、エレベーターは使わないようにしましょう。



6. ブロックやコンクリートの塀は、倒れることがあるので、近寄らないようにしましょう。



7. 避難する時は、お家の人や近所の人といっしょに避難所や広域避難場所まで、歩いて避難しましょう。



(バラバラに逃げ出さないこと)

8. 海の近くでは、津波がくることがあるので、高い所に避難しましょう。

おわりに

近年は国内だけでなく、海外でも大きな災害が発生しています。

消防では、火事や地震、その他の災害に対応するための活動を行っています。

みなさんも、家族や学校等で、大切な命を守るための話し合い

や勉強を行い、災害に強い人になりましょう。